

みずほCustomer Desk Report 2016/07/28 号(As of 2016/07/27)

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	USD/CHF	公示仲値 GBP/USD	105.13 AUD/USD
TKY 9:00AM	104.83	1.0987	115.18	0.9920	1.3156	0.7514
SYD-NY High	106.54	1.1065	117.15	0.9952	1.3236	0.7568
SYD-NY Low	104.67	1.0962	115.03	0.9861	1.3072	0.7420
NY 5:00 PM	105.41	1.1058	116.56	0.9861	1.3222	0.7494
USD/JPY Volatility 1M ATM (NY Close Lvl)	13.815/14.315		△25RR	0.670	Yen Call Over	

NY DOW	18,472.17	▲ 1.58	債券市場	日本2年債	-0.3610	▲3.1bp
NASDAQ	5,139.81	29.76		日本10年債	-0.2870	▲4.2bp
S&P	2,166.58	▲ 2.60		米国2年債	0.7184	▲3.6bp
日経平均	16,664.82	281.78		米国5年債	1.0863	▲4.7bp
TOPIX	1,321.67	14.73		米国10年債	1.4976	▲6.4bp
シカゴ日経先物	16,645	190.00	為替市況	独10年債	-0.0790	▲5.2bp
ロンドンFT	6,750.43	26.40		英10年債	0.7380	▲8.4bp
DAX	10,319.55	71.79		豪10年債	1.9520	3.1bp
ハンセン指数	22,218.99	89.26		USD/CNH	6.6715	▲ 0.0084
上海総合	2,992.00	▲ 58.17		ドルインデックス	97.05	▲0.10
USDJPY 3M Vol	12.33	▲0.37%	商品市況	CRB指数	179.619	▲1.60
USDJPY 6M Vol	11.73	▲0.31%		NY金	1,334.500	6.20
EURJPY 3M Vol	12.92	▲0.65%		WTI	41.920	▲1.00
EURJPY 6M Vol	12.56	▲0.55%		Dubai Spot	40.42	▲0.34

東京	東京時間のドル円は104.83レベルでオープン、一部新聞報道で「日銀内に追加緩和論、正副総裁が複数案を検討」との記事が報じられたことなどをを受けて、ドル円は105円台前半まで緩やかに上昇。その後、本邦大手報道機関より「政府の経済対策が27兆円規模、安倍首相が午後11時に公表」とのヘッドラインが報じられ、またほぼ同タイミングで「日本政府が景気対策で50年債発行を検討」とのニュースヘッドラインが流れたことでドル円は一時106.54まで急騰。しかしすぐに財務省関係筋より「50年債発行検討の事実はない」と直前の報道を否定するコメントが出されると、105円台前半は急落する慌ただしい値動きとなった。さらに東京時間午後11時に予定されていた安倍首相の講演において、経済対策に関する言及があるかどうか不透明な雰囲気が高まり、ドル円は一時105.10近辺まで値を下げるも、その後安倍首相より「来週取りまとめる経済対策について、財政措置13兆円、事業規模28兆円を上回る」との発言が伝わり、ドル円は再び106円台まで急騰する荒い相場展開となった。引けにかけてはやや水準を切り下げ、105.76レベルで海外市場に渡った。その他の目立った動きとしては、豪4-6月期CPIが発表され、ドル平均値が市場予想をやや上回ったことを受けて、豪ドルは一時0.7568まで急上昇。しかしRBAが利下げスタンスを変更するほどでもないとの見方が広がると、0.7500近辺まで反落。その後はドル円主導のドル買いに引込まれる形で、豪ドルは0.7458まで下落する展開となり、0.7473レベルで海外市場に渡った。次回RBA理事会(8/2)での利下げ織り込みは、足許5割程度となっている。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン時間のドル円は横ばい、105.76レベルでオープン後、東京時間のヘッドラインを受けての値動きは見られず、上下50銭弱の狭いレンジ内での値動きに終始。105.74レベルでNYに渡った。ポンドは小幅下落、1.3129レベルでオープン後、発表された英4-6月期GDPが前期比+0.6%と予想(前期比+0.5%)を上回ったことを受け、一時ポンド買いで反応するも、すぐに戻り売り優勢となり、1.3103レベルでNYに渡った。(ロンドン・トルジャー 00531 444 179)
ニューヨーク	NY時間のドル円は105.74レベルでオープン。朝方は米6月耐久財受注が予想を下回ったものの、ドル円の反応は限定的となり、狭いレンジ内での推移が続く。その後発表された6月中古住宅販売仮契約も予想を下回ったものの、こちらもマーケットの反応は薄く、105.70付近での推移が続く。注目のFOMCでは「景気見通しの短期的なリスクは縮小した」「雇用の活用が幾分増加傾向にある」などの見方を示し、やや楽観的との見方からドル円は一時106.05まで上昇する。しかし予想の範囲内で今後の利上げ期待を大きく変えるものではないとの見方から、ドル円は105.15まで反落する。終盤に掛けては調整の動きに若干値を戻し、105.41レベルでクロスした。一方、ユーロドルは、1.0992レベルでNYオープン。FOMC結果発表を控え、1.1000付近での推移が続くも、その後FOMCの結果を受けたドル買いに一時1.0962まで下落。ドル買い一巡後はドル売りが優勢となり、1.1065まで急伸する。終盤に掛けては高値圏での推移が続く、1.1058レベルでクロスした。(NY 00531 113 682井上)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

担当: 森谷・西谷

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
7月27日	10:30	豪消費者物価指数(前期比/前年比)	2Q 0.4%/1.0%	0.4%/1.1%
	10:30	CPIトリム平均値(前期比/前年比)	2Q 0.5%/1.7%	0.4%/1.5%
	15:00	独GfK消費者信頼感	8月 10.0	9.9
	17:30	GDP・速報値(前期比/前年比)	2Q 0.6%/2.2%	0.5%/2.1%
	20:00	MBA住宅ローン申請指数	- -11.2%	-
	21:30	耐久財受注/除く輸送用機器(前月比)	6月 -4.0%/-0.5%	-1.4%/0.3%
	23:00	中古住宅販売仮契約(前月比)	6月 0.2%	1.2%
7月28日	3:00	米FOMC政策金利	- 0.25-0.50%	0.25-0.50%

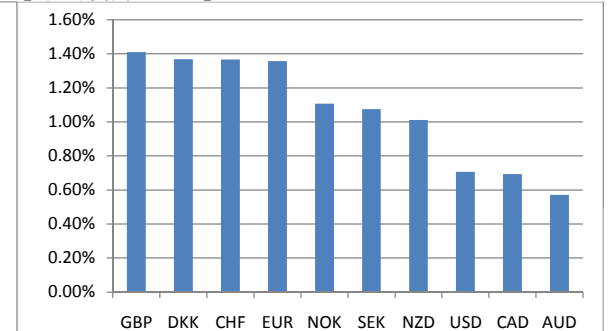
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
7月28日	8:50	対外・対内証券投資	-	-
	18:00	消費者信頼感・確報値	7月 -7.9	-7.9
	18:00	景況感	7月 103.5	104.4
	21:00	消費者物価指数・速報値(前月比/前年比)	7月 0.2%/0.3%	0.1%/0.3%
	21:30	新規失業保険申請件数	- 262K	253K
	-	日銀金融政策決定会合(7/28-29)	-	-

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	103.50-105.50	1.0950-1.1050	114.00-115.50

【マーケット・インプレッション】

昨日海外市場のドル円相場は小幅に下落する展開となった。注目されたFOMCでは市場予想通り金融政策は据え置きとなったが、声明文の内容が「景気見通しについて短期的なリスクは後退した」との文言が加えられる等ややタカ派な内容となったことを受けて一時106.05まで上昇。しかし、次回9月会合での利上げ期待を高めるほどではないとの見方からドル売りに転じると105円台前半まで戻される展開となった。本日のドル円相場は方向感に乏しい推移となると予想。日銀への追加緩和期待がドル円をサポートする材料として意識されるものの、